

ペットボードヘルスケア 海外展開も視野

IoT活用 ペットの健康管理支援

ペットボードヘルスケアは、ペットの健康管理を支援するIoT（モノのインターネット）サービスを開始する。体重などの各種データを踏まえ、適切な量の食事を与えられるシステムを提供。来年1月から受注活動を行い、同3～4月をめどにペットフードの出荷を始める。ペットは高額な医療費を伴うため、健康な期間をいかに延ばしていけるかが課題。システムを通じて健康管理をサポートすることにより、顧客の経済的負担の軽減化につなげていく。

一連のサービスは「hachitama（ハチタマ）」と名付け、プロジェクトの実現に向け



「hachitama（ハチタマ）」の給餌システムで食事をする犬。留守の時に適切な量を与えられるようにする。

でクラウドファンディングを通じて100万円の調達を目指している。この資金を基に中国メーカーにペットフードサーバーの量産を委託する。税抜き価格は1万4800円。

ペットの中でもとくに犬の場

合、家の外ではなく室内で飼うケースが主流となった。外敵もなく安定した室温の下で過ごせるようになり、寿命も長くなっている。一方でペットフードを多量に摂取して生活習慣病にかかり、アレルギーなどに悩むケ

ースが増えている。こうした複合要素が絡み合って多額の医療費が発生するため、犬の飼育頭数は減少傾向にあるという。

新たに提供するサービスは「食生活の改善によって、病院に行かなくて済む生活ができるだけ長くするのが狙い」（堀宏治社長）だ。ペットは体重に応じて摂取すべき食事の量が決まっているため、システムではスマートフォンのタイマーを使い食事の量や時間を適切に管理する。カメラを活用すれば、外出中もペットの行動を見守ることができる。

サービスで活用するペットフードは、豪州から輸入している高価格タイプを推奨する。着色料や添加物は使用せず、「人が食べられるものと同じ質の原材料」（堀社長）を用いているのが特徴で、通常のペットフードとは異なり食品として輸入して

■会社概要

- ▷ 本社＝東京都港区白金1-13-2
- ▷ 設立＝2015年3月
- ▷ 資本金＝800万円
- ▷ 従業員＝4人
- ▷ 事業内容＝ペット関連サービス

いる。このペットフードを一定期間にわたって購入すれば、割安でサービスを適用できる特典も与える。

こうした顧客をグループ化し、それぞれが保険料を出し合って資金プールを作り、その中から保険金を支払う「P2P保険」の導入も検討している。

また、台湾やシンガポール、タイ、中国、韓国などアジア諸国でペットブームが起きている点を考慮。将来的には海外展開も視野に入れていく。